

べし、大家には數あるべし、小家にても一ツはあるべし、急火といふ時物をいれて背に負べきた
め也、

〔下學集下器財〕檉シヤウベン靴編或

〔異制庭訓往來〕金絲、銀絲、九蓮絲、堆朱、堆紅、堆漆、沈金、犀皮、桂簞、香合、是納篋。篋二對、

〔梅園日記五〕檉編

桂川地藏記に、魚腦、檉シヤウベン椀、象牙引壺、頗黎卮、瑠璃壺とあり、先年岩瀨京傳、この檉椀はいかなる物な
らんと問しに、知らざるよし答へたりき、後按ずるに、尺素往來に、六納し檉椀、三入葛箱、又下學集に、
食籠、檉靴編或撮壤集に、葛籠、皮籠、檉鞭、異制庭訓往來に、箆篋、本按に慶長板節用集二松會板遊學往來
に、犀皮、堆紅、堆朱、堆漆、鷗楊、桂漆、雲朱、世良田等之香箱、納檉椀一荷借進之、寛文二年板遊學往來に、
朱漆木椀、厨子、楝子、馬上蓋、唐折敷、同黒漆赤漆折敷各三束、納楊編一荷借進候、類集文字抄に、傷編
印籠、食樓など有を合せ考ふるに、箆楊傷は、俱に檉の假字なり、椀、鞭篋、篋松會板遊學往來の、檉、皆
編の假字にて、正字は檉編なるべし、檉字の音はテイにて、吳音チヤウなれども、聖字の吳音シヤ
イカンサンノミチミと、これカハヤキ條をもて編たる器なり、天文十一年池坊惠應記に、シヤウヘンの
圖あり、略此シヤウヘンすなはち檉編なるべし、さてかの地藏記なるは、魚腦を以て、檉編の形
に作りし物にや、

〔倭名類聚抄十四行旅具〕囊 蔣飭切韻云、袋首代、字亦作袋、囊名、又魚袋、

〔箋注倭名類聚抄十六行旅具〕玉篇、袋囊屬、囊說文作囊、云囊也、略中 按魚袋非此用、又魚袋三字當刪、

〔千祿字書平聲〕囊上、袋上、同去聲、袋上、袋下、通正

〔事物紀原八舟車帷帳〕布袋

召康公美、公劉之厚於民也、其詩曰、乃裹餘糧於囊、於囊、毛傳曰、大曰囊、小曰囊、御覽云、古行者之食、